

審議会等の会議結果報告

1 会議名	令和5年度 第1回 松阪市松浦武四郎記念館運営審議会
2 開催日時	令和5年9月8日（金）13時30分～15時00分
3 開催場所	松阪市小野江町 383 番地 松浦武四郎記念館 多目的室
4 出席者氏名	委員 8名（◎委員長、○副委員長） ◎萬濃 正通、○松本 吉弘、 松浦 史明、鈴木えりも、山中 和儀、野田 幸範、中村 千恵 事務局 6名 川村 浩稔（産業文化部長）、松葉 和也（文化担当参事 兼 文化課長）、 寺嶋 昭洋（文化課 文化財担当主幹）、小川可奈子（同課 文化財担当主幹 兼 文化財係長）、山本 命（松浦武四郎記念館 館長）、 佐藤圭祐（同館 学芸員）、世古 詩央里（同館 会計年度任用職員）
5 公開及び非公開	公開
6 傍聴者数	なし
7 担当	松浦武四郎記念館 山本 TEL 0598-56-6847 FAX 0598-56-7328

協議事項

- (1) 令和5年度 運営状況報告
 - ①松浦武四郎記念館
 - ②松浦武四郎誕生地
 - ③武四郎まつり
- (2) その他

令和5年度 第1回 松阪市松浦武四郎記念館運営審議会 議事録（要約）

日 時：令和5年9月8日（金） 13時30分～15時00分

出席者：7名

委員長 萬濃 正通 （松阪市小野江小学校 校長）
副委員長 松本 吉弘 （旧長谷川治郎兵衛家・旧小津清左衛門家・原田二郎旧宅 館長）
委員 松浦 史明 （松浦武四郎直系子孫）
委員 鈴木 えりも （松阪市文化財保護審議会 委員）
委員 山中 和儀 （松阪市小野江公民館 館長）
委員 野田 幸範 （本居宣長記念館 館長）
委員 中村 千恵 （三重県総合博物館 学芸員）

欠席者：1名

委員 野瀬 岩朗 （松阪北部商工会 会長）

事務局：7名

産業文化部 部長	川村 浩稔
文化担当参事 兼 文化課長	松葉 和也
文化課 文化財担当主幹	寺嶋 昭洋
同課 文化財担当主幹 兼 文化財係長	小川 可奈子
松浦武四郎記念館 館長	山本 命
同館 学芸員	佐藤 圭祐
同館 学芸員（会計年度任用職員）	世古 詩央里

傍聴者：なし

1. 開 会
2. 委員委嘱 産業文化部 川村部長から野田委員に委嘱状を交付
3. あいさつ 産業文化部 川村部長
4. 協議事項 事項書に沿って報告を行い、それに対する質問・意見をいただいた。

①広報活動について

委員) 展示広報はどのように行っているか。

事務局) 松阪市記者クラブへの資料提供、広報まつさかやホームページへの掲載、Facebook、Twitter、Instagramでの発信、ポスターやチラシを博物館や図書館へ送る、などを行っている。

委員) 三重県総合博物館の場合、チラシの送付先や見学に来た小学生に100円の割引券を配っ

ている。割引券にしるしをつけておけば、どこで博物館の事や展覧会のことを知ったのか、どこからやってきたのか、データを取ることもできる。

委員) チラシやポスターを送っても置いてもらえる場所が無い施設もあるが、置いてもらえれば宣伝になる。図書館や博物館に行く人は、チラシを見て集める人もいるので、ぜひチラシは展示ごとに作って欲しい。チラシがあると配ったり、渡したり、置いてもらうこともできる。

委員) 本居宣長記念館も入館者数が減っているのも積極的に動かなくてはならないが、チラシやポスターを配る、割引券を配るなど、大変なことも多いが、今後の参考にしたい。

②アンケート結果について

委員) 三重県総合博物館の場合、ポスター・チラシを見て来館される方が多い。また、県立図書館からの来館者も多い。

副委員長) 記念館の前後にどこへ行ったのかを確認すると、松阪市内の様々な施設に来ていただいている。もっと館のつながりを作って交流、連携することができれば、松阪市内の活性化につながるのではないかな。

③誕生地の活用について

委員) 火を使わないようなカフェや食べるものがあれば、人を呼ぶことができるのではないかな。

事務局) 最近、誕生地に近い伊勢街道の食料品店で、かき氷やラムネ、たこ焼きなどを販売するようになった。こうしたお店で食べてもらえれば、地域の活性化にもつながり、誕生地に来る人も増えると思われる。誕生地に来てもらうことで、地域も潤うような循環を作りたい。

副委員長) 旧長谷川治郎兵衛家で抹茶・コーヒーを提供しているが、それは儲けるためではなく、癒しの空間を演出して、少しでも長く滞在してもらうため。また、地域のグループと連携して、茶道、落語、マジックショー、二胡の演奏、雅楽、たたき染めなどを行っている。誕生地もみなさんに親しんでもらえる楽しい空間にできればよいのではないかな。

④武四郎まつりについて

委員) 武四郎まつりでは、武四郎をたたえる＝顕彰することが話題になるが、武四郎の顕彰をどうするかは記念館が行うべきではないかな。

委員) 専門的な顕彰、展示などは記念館に任せてもらい、その展示を見てもらうための案内をまつりの実行委員のみなさんにしてもらう形でよいのではないかな。

事務局) 顕彰は専門的なことだけに限らない。例えば、偉人顕彰団体連絡協議会で「松阪の偉人たち展」を開催してもらうことも当てはまるし、子どもたちが壁新聞を作って学校で掲示することも顕彰である。顕彰は地域のみなさんの協力を得て行うもので、保存会や友の会のみなさんの力も必要。もちろん専門的なことは記念館で行う。

委員) 小野江地区に目を向けると、誕生地保存会の担い手は70代後半が多い。50～60代に浸透するようにしていかないと担い手がいなくなる。もともと、記念館ができるまで

は地域では武四郎を知っている人がとても少なかった。このままいくと、地域に博物館だけが残ることになってしまう。現実を考えてほしい。

事務局) これは小野江地区だけの問題ではなく、全市的な課題である。誕生地は地域とともに活動できるようにしていきたい。

委員) 誕生地の日常のお世話を地域が担うのはとても難しくなっている。定年退職が引き上げられて65歳以上しか地域に目を向けてもらえなくなっていることもあり、博物館だけの枠で考えると行き詰ってきており、難しい問題だと思う。

副委員長) どんどん長寿になってきている時代なので、長い目で計画を考えた方がいいのではないかな。子どもに対して学習の機会を設けると、地域に誇りを持ち、Uターンして松阪へ転居してもらえる人も出てくる。Uターンしなくても、松阪のために力を貸してもらうこともできる。こどもから教えていくことで、潜在的なところにも働きかけることができるのではないかな。長いスパンで育てる、輪を広げていくことが必要である。

⑤松浦武四郎記念館の開館30年について

委員) 記念冊子を作ると思うが、そこへ地域の人たちが記念館に関わってきたことも内容として入れて欲しい。また、小野江地区には全戸配布できないか。記念冊子に入れることができなくても、別冊で制作するなど方法はあるので、予算の都合など出来ないこともあると思うが、ぜひ検討してほしい。

委員) 小野江地区では記念館ができるまで、武四郎を知らなかった人も多い。

委員) 開館30年についてほかに考えていることはあるか。

副委員長) 若い世代に対して将来に向けて何かできないか。全国から資料を借りることはできないか。

事務局) 式典や特別展の開催などを考えている。